

## <本望行雄>の巡り合った——『七十七賢人』

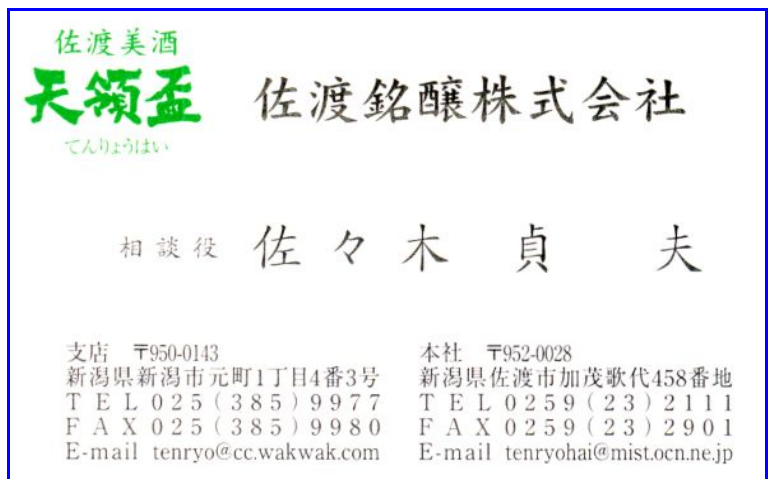
### No. 35 「佐々木 貞夫 (Sasaki Sadao)」

「佐々木」先達は、松竹梅の如く、姿・香・味が相乗する“最高の日本酒造り”を天職として、その人生を賭して、(元)マルサプラント(株) {新潟県新津市大字川口578番地10} 社長・会長として、長きに渡って、醸造機器・装置を開発・製造され、日本の著名な醸造元に納品されて来られた方です。

「私」は、「(株)マルサ代表取締役会長、マルサプラント(株)代表取締役社長、佐渡銘醸(株)代表取締役会長、新津商工会議所常議員」の頃の、「佐々木」先達を存じ上げませんが、「私」の母が、「佐々木」様の奥様と長くご厚誼賜り、この、2008年05月に、ほんの親孝行の真似事で、母と「私」の妹、弟家族を招待し、「私」の家族共々、佐渡島を訪れた際に、偶然、佐渡銘醸(株)天領の里売店で、お会いさせて戴きました。

佐渡で、冬季に転ばれたとの事で、右足を痛められ、杖を頼りとされておられましたが、恐らく、80歳近くと存じますが、年齢を感じさせない——少年のイタズラ心の“眼”の中に——最高を追求する、強い情熱を感じました。

紆余曲折を経て、現在も、佐渡銘醸(株)相談役として、①日本酒造りに掛ける真摯な情熱、②更に、真理を究めようとの求道者の如き熱き志、そして、③常に開拓者の心を失わない姿勢には、人生の先達として学ぶべき事が、極めて多いと直感しました。“出来ない人”は、“出来ない理由”を一生懸命探しますが、本当に出来る人は、ほんの僅かの可能性を探して拓きます。ほんの一瞬の交流では有りますが、「佐々木」先達の中に、10年来の知己の薫りと“本物の賢人”を感じました。今後共、『枯れぬ情熱の源泉、真竹の心』等々を、銘酒談義を介して、一献傾けつつ、ご厚誼賜りたいと願いました。



趣味は商売。「商いは、道によって賢し、とやら」。その道、その道の、プロには絶対に勝てない、自分の仕事(商い)では、同業他社に負けない、を目指して努力中…。

苦しい時は相手も同じ、一手打てば相手も一手打つ。値引で取ったお客は、値引で取られる。接待で取ったお客は、接待で取られる。何事も工夫が肝心、知恵が必要。根気で相手に勝れば、自ら運が開ける。情熱を込めて独創開発、商いが好きで、好きでたまらない。

策を練り、戦いを仕掛ける、作戦が図に当たり、うまくいった時、仕掛にうまくかかったあの気分が最高です。この為、時間をかけて、相手の気をつかない所へ一石を打つ、これが趣味となって楽しくて仕方がありません。

常に、お客様のお役に立つ事を考えることが自分の幸せにつながる事が解り、益々、楽しくなる。

今日も一日頑張ろう、フェアな競争は激しいほど好きです。

【「佐々木」先達——談】

これまでも幾多の苦難を乗り越えて来られ、現在、ご自身の最後の人生を賭して、更なる挑戦

「本望 行雄」の巡り合った——《七十七賢人》

をされておられるご様子ですが、ご健康に留意されて、是非にでも、ご自身の本懐を遂げられる事を切に願う次第です。

【文責；(株)技術開発総合研究所® 本望 行雄—2008年07月15日記】